

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんりつめいかんりつめいかんこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府	
26～30	①学校名	学校法人立命館立命館高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	各学年9クラス 1年334名、2年339名、3年320名 全校生徒数993名		
普通科	70	35	35		140			
	上記2年・3年のGL(国際)コースと1年コアコースのGJクラスの生徒を中心に進めるが、その成果を発表・共有することで全校に広げ、ワークショップ等にも参加させたい。							
⑥研究開発構想名	平和な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す教育システムの研究開発							
⑦研究開発の概要	世界平和の実現を目指す使命感と諸問題に真摯に目を向け考察できる力をもって、リーダーシップを発揮し世界に貢献できる人材を輩出することを目指す。また、国際的な共同課題研究を推進していくための具体的手法を研究開発したい。そして、有効な教材や教育手段を明らかにし、それらを教育システムとして構築したい。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標						
		世界の平和に貢献できる人材を多く輩出するための教育システムの構築と研究開発をしたい。具体的には、平和への貢献を願う高い使命感を獲得させるための有効な教材開発と、将来の国際社会で真に活躍するための行動力や積極性を得るための教育手法の開発である。そのために、世界の貧困や災害を題材とし海外生徒と共同での国際課題研究に取り組む。また、この取り組みを通して、人材育成の手法について研究をまとめ、テキスト化をはかり、研究内容を日本の多くの学校で共有化できるよう教材開発を進める。						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						
		平成26年度よりGL(国際)コースを設置する本校では、これまでも世界平和の実現を目指し、国際性豊かな人材を育成するため、多岐にわたる様々な教育活動を実践してきた。しかし、今後、高校生へのグローバル教育の重要性はさらに高まり、平和実現のための意識の涵養や他国の人々と協調して行動する力、そしてリーダーシップなどを持った人材が求められると考える。本校では、SGH事業として以下の仮説を設け、そのような国際社会の要請に応えうる人材を輩出するための研究を行う。						
		〔仮説Ⅰ〕 貧困の撲滅を課題研究として取り組むことによって、社会的弱者からの視点を持ち、世界の平和実現への使命感を高められる。						
		〔仮説Ⅱ〕 災害の防止や被災者への援助を課題研究として取り組むことによって、国際社会における行動力や計画性、リーダーシップを養うことができる。						
		〔仮説Ⅲ〕 海外生徒との共同課題研究を実施することにより、グローバルな視点と協調の姿勢を育み、国際舞台で活躍する夢を具体的に描けるようになる。						
		(3) 成果の普及						
		研究開発による各取り組みの報告をホームページ等で公開し、取り組みの広報と成果の普及を心がける。また、平成27年度に本校で開催予定の全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会においてSGHの取り組み報告および意見交換の場をもち、さらに近隣校へ呼びかけて教員による研究会を毎年実施し、研究を深めるとともに他校への普及の場とする。3年目、5年目については、この研究会をシンポジウムとして成果の報告を普及する場として規模を拡大して実施する。						
		毎年の実施報告書を広く配布し、普及の一環とする。得られた成果を他校の取り組みにも活かせるようテキストにまとめ、広く配布することで成果の普及に努力する。						

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容          テーマ：「貧困の撲滅と災害の防止・対策 ～世界平和の実現のために～」          人類が幸福追求のため平和への希求実現を阻害している諸要因のうち「貧困の撲滅」と「災害の防止・対策」を切り口として取り組む。講演等により世界の貧困問題に着目させ、その上で、フィリピンのレイテ島における災害の調査を題材に、東日本大震災や阪神・淡路大震災の復興との比較を行うなかで、その本質にある「貧困」と「災害」の密接な関係性に気づかせていき、海外の生徒とも共同調査やディスカッションを行い、このような人類的難問を解決する志をもった人材を育成し、将来、世界の各国でそのための努力を惜しまない、豊かなコミュニケーション能力等を持ったグローバル・リーダーを輩出したい。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価          平成26年度については、課題研究のテーマの整理・研究・調査活動を中心に展開する。それに加え、立命館アジア太平洋大学などの大学教授や、JICA職員による上記研究内容に合致した専門家による講義、海外生徒とのTV会議やフェイス・トゥー・フェイスによる議論、海外校との課題研究や共同課題学習の実施、教材開発等への着手を考えている。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等          教育課程の特例を適用する内容は無い。2年・3年の「総合的な学習」の名称変更を行う。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価          ディスカッションを主軸として、3年間段階を経て行う英語指導をGLコースにおいて実施。「貧困の撲滅」や「災害の防止・援助」について無理なく英語で議論を行うことのできる力を養いたい。同時に、世界で起こっているあらゆる出来事を自らの力によってオンタイムで情報収集できる力を養いたい。          学校設定科目「English Discussion」「Global English」を中心に実施。          評価は次にあげる内容等による。          方法・教材の開発／発話の質の変化／CNN等の視聴での内容理解力／TOEFL-ITP          またはG-TEC／世界規模の問題に対する意識／取り組んだ活動の内容・頻度の調査</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等          教育課程の特例を適用する内容は無い。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法          海外留学生受け入れを積極的に行っている。平成25年度の受け入れ生徒は295名。海外研修として、中学3年全員を対象にした2週間のホームステイ体験。          中学3年で、海外から同年代の生徒を招き、1週間の交流活動(Rits Global Summit)。          ※本校では小学校、中学校、高等学校の一貫教育システムを目指し、4-4-4の発達段階に応じて教育内容を組み立てている。中学3年から高校3年までの3rdステージ4年間のスタートの時期に、生徒全員が海外との交流を活発に行える機会を設けている。          GJクラスは3rdステージの前半である中3、高1の2年間に設置され、GLコースは3rdステージの後半である高2、高3の2年間に設置される。GJクラスにおいては、平成27年度から希望者による2ヵ月の海外研修を行うことを予定している。          SSHの取り組みとしてJapan Super Science Fairを毎年実施してきている。今年度は海外18カ国・地域28校116名の高校生が参加。          その他、海外研修も多く参加できる機会(今年度は30企画)。</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入)</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成14年度から12年間のSSH研究開発を行ってきており、SSH第3期(平成22～26年度)の研究開発課題は「国際舞台で活躍する科学者への素養を育てる教育システムの研究開発」これまでのSSH事業で開拓してきた大きな国際的ネットワークをSGHで利用する。また、SGHでの視点は、SSH活動での科学者としての倫理観等にも大きな影響を与えると考える。          立命館小学校、立命館中学校、立命館高等学校の一貫教育によって、英語教育の大きな前進を図れるものと考えている。立命館小学校から英語を学習して進学してきた生徒が現在高校1年まで進級し、次年度から開始するGLコースの中心を担うこととなる。この間、一貫教育での英語教育をテーマにした研究会等も開催し、大きな関心を得ている。</p>

ふりがな	がっこうほうじんりつめいかん りつめいかんこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	学校法人立命館 立命館高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	122人	91人	人	人	人	人	人	440人
目標設定の考え方: ボランティア活動、震災復興支援活動、SS課題研究の3種類を想定(クラブ活動を含まず)。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	70人
	SGH対象生徒以外:	161人	185人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 中期留学、短期留学、海外研修(希望者参加)を経験した人数、ただし、修学旅行(選択制)や部活動を除く									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:	32%	29%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 年に数回実施しているアンケート等による調査									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	8人	4人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 「知の甲子園」決勝大会出場、日本科学オリンピックメダル獲得、日本学生科学賞等の全国レベルのみ									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	6.5%	8.8%	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: TOEFL-ITPスコア480点以上取得の人数。									
(その他本構想における取組の達成目標) 高校卒業時に課題研究の報告書を英文で提出する生徒数									
f	SGH対象生徒:								35名
	SGH対象生徒以外:	27名	31名						35名
目標設定の考え方: 課題研究報告書をすべて英文で作成して提出する生徒の数(高校3年卒業までに)									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		88%	86%	%	%	%	90%
目標設定の考え方: 立命館大学および立命館アジア太平洋大学が上記指定大学で、推薦進学制度がある。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 海外大学への進学者数。今後、SGH対象生徒の海外大学進学が予想される。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 大学の進学先学部・学科等を比較対象するとともに、アンケートを実施する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 立命館大学および立命館アジア太平洋大学への進学者については、追跡調査が容易。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	26人	14人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方： 従来、SSHのコースの生徒が海外研修に参加。SGH生徒について課題研究の国外研修を実施。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	88人	129人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方： 25年度入学生からはMSコース(特進コース)以外の全生徒に課題研究を必修化。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	10校	10校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方： 従来のSSHでの実績に加え、SGH関連では26年度に台湾の高雄高級学校との連携を確約済み。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	38人	24人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方： 従来のSSHでの実績に加え、26年度以降は増加を想定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方： 26年度以降は課題研究の全生徒必修化とSGH関連でJICA等の講演等での増加を想定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	54人	50人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方： 「知の甲子園」、「模擬国連」等への参加者数								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	267人	295人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方： 従来のSSHでのシンポジウム参加の短期留学生や他の年間留学生に加え、SGH関連での増加を想定。								
先進校としての研究発表回数								
h	4回	3回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方： 本校主催の研究発表会(教員対象)数、および、研究会等に招聘され本校教員が発表した回数の合計。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方： 26年度夏の新校舎への移転にあわせて英文のホームページを一新する予定。								
(その他本構想における取組の具体的指標) グローバル&ビジネス講演会の実施回数								
j	6回	7回						10回
目標設定の考え方： グローバルな社会またはビジネス課題に関してリーダーとして活躍されている方の講演会の実施数。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	989	993	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							